

学生便覧 2025年度

ビジネスデザイン研究科

ビジネスデザイン専攻

G2025-4

ビジネスデザイン研究科

ビジネスデザイン専攻

I. 教育研究上の目的

ビジネスデザイン研究科は、時代と社会の変化に対応し、ビジネスに関する仮説の探索、論理的な分析と推論及びビジネスモデル構築の能力をもち、価値創造を実行できる高度な専門職業人を養成する。また、ICTとデジタルメディアの進化に即して、メディアに関する技術・表現・制作及び視覚文化・映像文化・表象文化の教育研究を行い、クリエイティブな職域で活躍できる能力を養成する。

II. ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻は、所定の単位を取得して学位論文審査に合格し、かつ以下に該当すると判断した場合に、修士（経営学）の学位を授与します。

- （１）広い視野と深い学識を持ち、高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力及び専攻分野における研究能力を修得し、活用することができる。
- （２）高度の専門職業人に必要な知識・能力・倫理観を修得し、活用する事ができる。
- （３）市場の変化と消費者インサイトを見極め、企業が目指すミッション・ビジョン・バリューに基づきブランディングを実行し、ビジネスコミュニケーションをデザインする事ができる。
- （４）時代と社会のニーズに応じて価値を創造し新しいビジネスモデルを探索し構築する事ができる。

III. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻では、教育研究上の目的及びディプロマ・ポリシーに基づき、ビジネスモデル構築に係る能力と、表象文化に係る教養を修得し、様々なメディアを活用して価値創造ができる高度の専門職業人を養成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成します。

- （１）基本的な研究方法論及び経営学に関する基礎的な知識を習得するため、ビジネスデザイン基礎論科目群を設置する。
- （２）俯瞰的な視野をもって経営学に係る知識、論理的なフレームワークを学ぶため、マネジメントサイエンス科目群を設置する。
- （３）ビジネスにおける新しい価値を創造する能力を修得するため、ビジネスコミュニケーション・デザイン科目群、ビジネスモデル・デザイン科目群を設置する。
- （４）クリエイティブ思考力及びコミュニケーション能力を修得するため、事例研究・表象文化科目群を設置する。
- （５）ビジネスデザインに係る研究成果として、修士論文あるいは課題研究報告書を作成するため、演習科目を設置する。
- （６）アセスメント・ポリシーに基づく学修アセスメント・プランを提示し、ディプロマ・ポリシーに示す能力の修得状況及び大学院生としての成長に伴う達成度を測定、評価する。

以上の教育課程の編成に基づき、各授業内容に応じて、高度な専門知識の習得を目的とする「講義」、知識や理論の実践や論文の作成・発表手法の習得を目的とする「演習」、事象の検証や実践的な応用、技術や技法の習得を目的とする「実習」を取り入れた授業形態を採用します。また、社会のニーズを踏まえた教育を展開することができるよう実務家教員を配置します。さらに、合理的な授業人数の調整やICTを活用した教育方法を導入し、より効果的な教育を実施します。

IV. 修士論文指導は、次のように実施していく。

入学時に提出する研究計画を基に指導教員を決定する。指導教員は学生と協議のもとに副査2名を選出し、指導教員と副査より適時指導を行っていく。公開発表会における発表等をととして指導教員、副査以外の研究科所属教員も随時指導に協力する。

学年	期間	発表会計画	留意点等
1 年次	入学時	『研究計画書』提出	1 年次終了までに副査 2 名を決定
2 年次	前半	論文作成計画発表	研究テーマの独創性と可能性 問題設定と研究意義の妥当性 研究方法，参考文献，調査・資料収集の計画性
	後半	修士論文概要発表	参考文献，調査資料，データ分析の適切さと信頼性 論文作成能力の到達度

V. 修士論文概要発表において、指導教員及び副査より論文提出の許可を得た者が、最終的に修士論文の審査を願い出ることができる。

提出に関する詳細は、以下のとおりである。

○学位論文提出期間

年度によって提出期間及び締め切り日等は異なるが、概ね1月もしくは、7月を提出期間として設定する。

＊必ず、掲示や当該大学院事務室にて確認のこと。

○大学に提出するもの

- ①学位論文提出票 1 部
- ②学位論文審査願（所定用紙） 1 部
- ③提出許可届 1 部
- ④誓約書 1 部
- ⑤修士論文 4 部および電子データ
- ⑥修士論文要旨 4 部および電子データ

○修士論文並びに修士論文要旨の作成様式

- ①記載言語は、和文、英文を問わないが、横書きで記載し、左綴じとする。
- ②用紙は、白色上質紙（レーザープリントに適應できるもの）のA4 版（横 210×縦 297mm）とし、以下の字組で記載すること。

和文の場合 1 ページあたり、1 行を 40 字とし 36 行とする。

英文の場合 1 ページあたり、1 行を半角の 70 字とし 36 行とする。

- ③各表紙・ページの余白については、後掲の修士課程用様式に従って作成すること。
- ④ページ番号の記載方法については、用紙下段（余白）の中央に記入すること。
- ⑤文章の記載方法については、パソコンの文書作成ソフトを用いること。
- ⑥注の表記や出典の表記等の学術表記は、指導教員の指示に従うこと。
- ⑦修士論文要旨の分量

和文 4,000 字以上～6,000 字以内

英文 A4 版 1 ページ 36 行 5 枚以内

⑧修士論文の分量

和文 28,000 字相当以上

英文 A4 版 1 ページ 36 行 40 枚以上

＊和文・英文とも、上記分量に、参考文献と添付資料は分量に含めない。

＊縦書きの場合は、学部事務室へ問い合わせること。

VI. 修士論文の審査は、次の要領で実施する。

1. 主査及び副査2名以上で行う。
2. 審査は主に次に挙げる事項を基準に審査を進める。
 - (1) 論文は、学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果であること。
 - (2) 論文の内容は、新規性又は独創性等を有していること。
 - (3) 論文の構成と内容、分量が次の観点から適切であると判断されること。
 - ① 論文のテーマ設定、問題の立て方等が意義深いものであるか。
 - ② 研究の背景について述べられ、研究目的が明確であるか。
 - ③ 研究方法について述べられ、目的に沿った方法であるか。
 - ④ データや資料は、適切な方法で収集され、適切に提示されているか。
 - ⑤ 提示されたデータや資料に基づき、適切な考察がなされているか。
 - ⑥ 研究目的を踏まえて、適切な結論が導き出されているか。
 - ⑦ 文献の引用、資料の提示は適切になされているか。
 - (4) 「城西国際大学における公正な研究活動の推進に関する規程」を順守していること。

VII. 修士論文の提出後に行う口述試験は、次の要項で実施する。

1. 主査及び副査2名以上で行う。パワーポイント等プレゼンテーションソフトを使用し、発表20分、質疑応答10分を原則とする。
2. 口述試験は主に次に挙げる事項を基準に進める。
 - (1) 論文内容の説明が適切であること。
 - ① 論文全体について適切、かつ、論理的に説明することができたか。
 - ② （必要に応じて）研究倫理について正しく理解し、明確に説明することができたか。
 - ③ 論文の新規性又は独自性等を正しく認識し、説明することができたか。
 - (2) 質疑応答における論文内容の説明が適切であること。
 - ① 質疑に対し、論文内容を適切な手法で説明することができたか。
 - ② 質疑に対し、適切に応答することができたか。

※口述試験において上記事項に一部不備が認められる場合には、論文の修正を求めることがあり、その場合は論文に修正を加え再提出すること。

VIII. 主査及び副査は、論文審査における「合」「否」、口述試験における「合」「否」を判定する。研究科委員会において、その結果からディプロマ・ポリシーに基づき、意見を取りまとめ、それをもとに学長が学位授与の可否を決定する。